

## 5) ステーションナリー(文具)関連製品の開発

江口佳孝、関戸正信

既存の食器生産工程を考慮し、産地製品の多様化に資することを目的とした食器外の製品展開を図るため、インテリア雑貨、ギフト、ノベルティ関連の 카테고리の中で製品開発を行った。主なステーションナリー製品とは、筆記用具と用紙(ノート、便箋、手帳)であるが、この市場に向けた製品展開を行うことで新たな市場の開拓を図る。

### 1. はじめに

ライフスタイル、特に食習慣の変化に伴う和食器離れ、または食器離れの中で、食育の必要性を叫ばれているほど食文化も変化、多様化している。

家事労働のもっとも大きい部分である調理、食後の食器洗いなどを簡素化し、家事労働自体を減らしていく傾向が若年層世帯に多く見られ、これらの世帯を中心に家庭内で使用される食器のアイテム自体が減少し、また偏っている傾向がある。

陶磁器産地として、現代の食習慣に合わせた食器製品の開発は、あまりの多様化、少量化に対応できない部分がある。

反面、食器以外の分野で活路を見出せる製品の開発が必要であり、産地製品の多様化に資することを目的とした食器外の製品展開を図る検討をした。

ステーションナリー製品は筆記用具、用紙が主力のアイテムであるが、この市場の中で製品を展開することで、インテリア雑貨、ギフト、ノベルティといった関連の市場を望める。

陶磁器食器外製品として既存の食器生産ラインで製造できるステーションナリー関連製品のアイテムを構築し、これらのカテゴリーの中で製品展開を図る。

平成 23 年度は、アイテムの拡充としてブックエンド、書道具の試作を行った。

### 2. デザインと試作開発

#### 2.1 ブックエンドのデザイン・試作

比較的難しいとされるL型の製品を焼成するため、アーチ形の連続による構造を用いた。

CADによりデザインから型の設計を行い、そのデータ

を基にモデリングマシンによるNC切削で試作型の製作を行った。

図1、図2 にブックエンドのCADによるデザインから型設計データを示し、図3、図4 に試作品を示す。

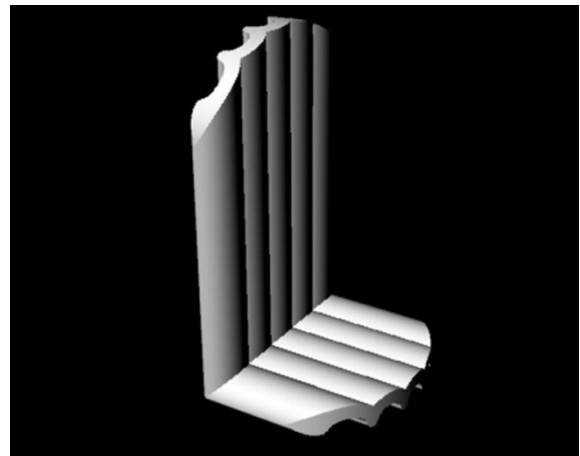


図1 ブックエンドのレンダリング。

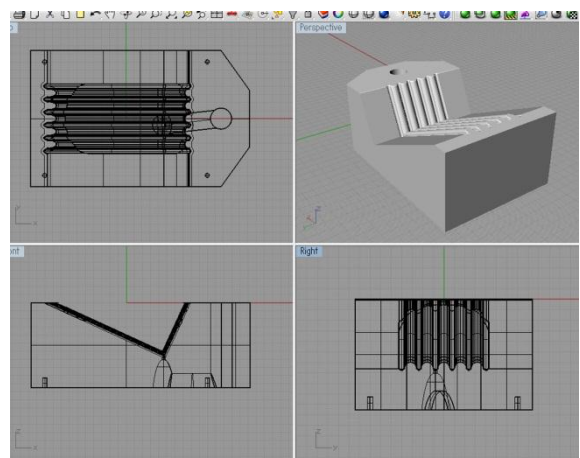


図2 ブックエンドの型データ。

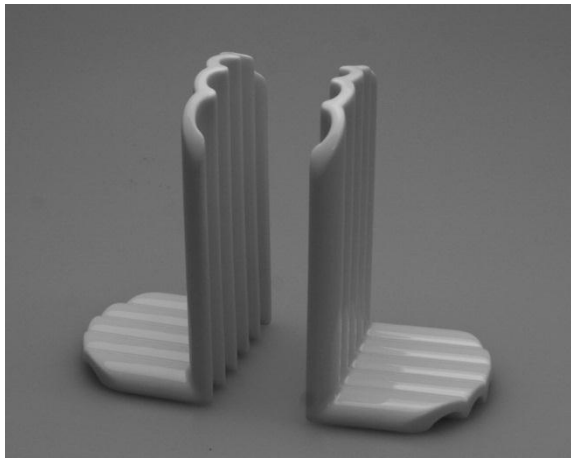


図3 ブックエンド焼成品



図5 陶硯レンダリング

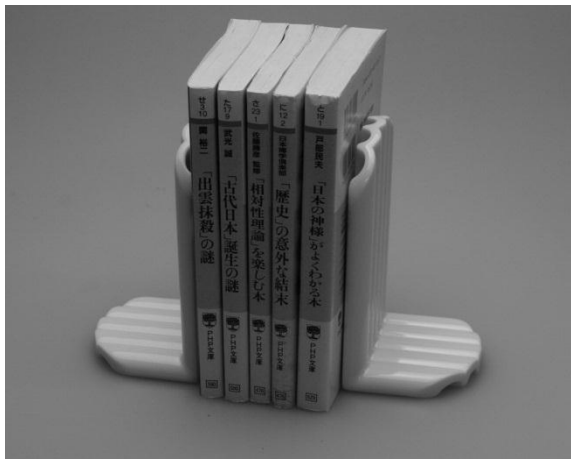


図4 ブックエンド使用例

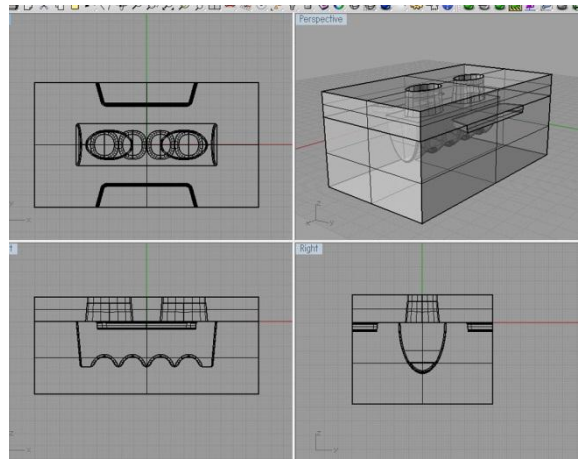


図6 筆架型データ

## 2.2 書道具(陶硯、筆架、墨床)のデザイン・試作

東洋古来の文房具であり、絵手紙、写経など愛好家が多く看られる書道に視点を置き、現在の和風モダンという建築関連の流れを考慮した書道具の試作に取り組んだ。

アイテムとしては、陶硯(とうけん)、筆架(ひっか)、墨床(ぼくしょう)を製作した。

図5に陶硯のCADによるレンダリングを示し、図6、図7に筆架、墨床の型データを示し、図8～図11に試作品を示す。

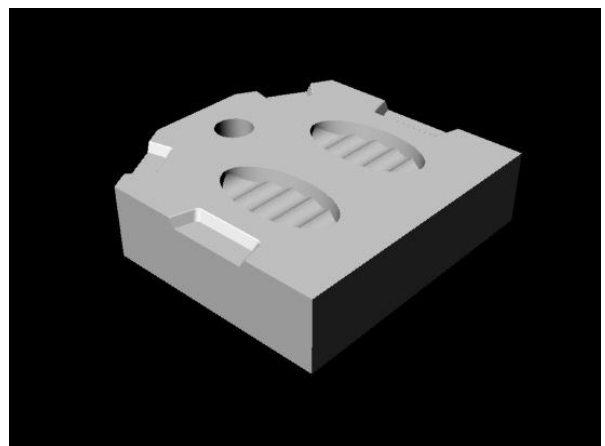


図7 墨床型データ

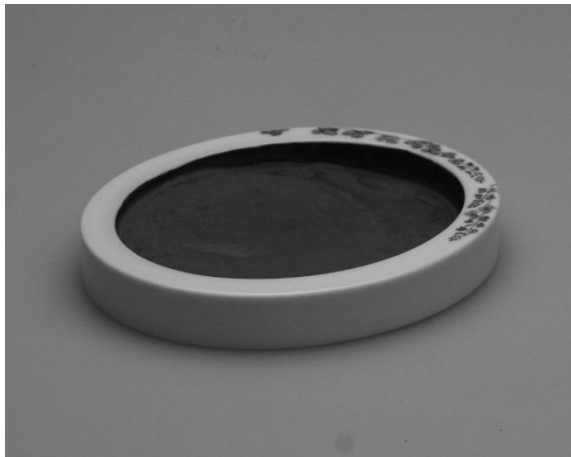


図8 陶硯焼成品



図10 書道具使用例

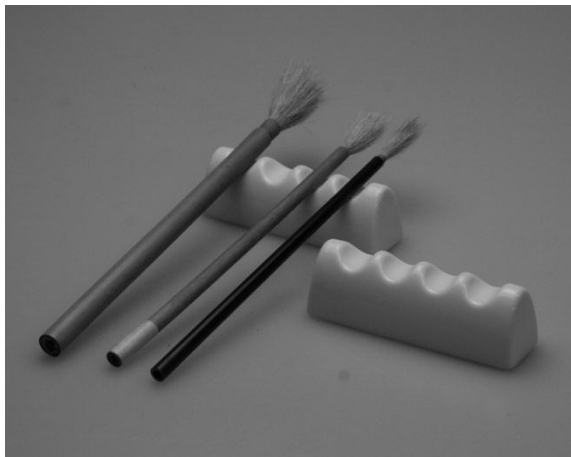


図9 筆架焼成品

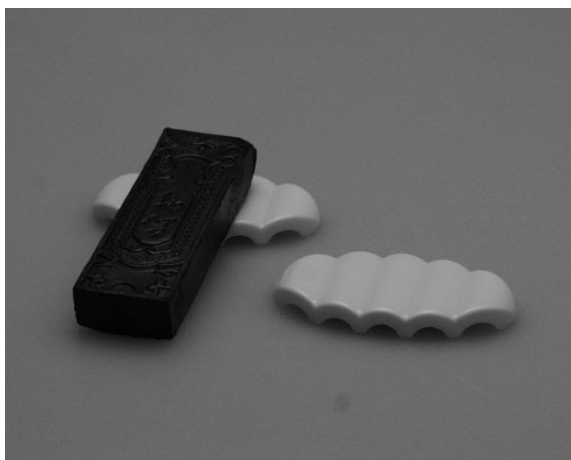


図10 墨床焼成品

### 3. まとめ

多岐にわたって市場の開拓を試みるためには、様々なカテゴリーのアイテムの開発が急務であり、本研究では、既存のラインの中で生産できることを念頭に置き、ステーションリー関連製品開発の取組を行った。

また、試作作業の高度化を目的とし、デジタルデザイン(CAD・CAM・モデリングマシン)の活用に取り組んだ。

デジタルデザインの活用により、設計から試作焼成まで、困難な形状においてもクオリティーは格段に向上している。

食器外製品の開発は隙間的な要素として捉えてはいるが、肥前地区の陶磁器製品の販路を拡充するためには、必要な取り組みである。

以上のこと踏まえ、研究課題「住環境に即した新製品開発 H23～25」に繋げ、さらにインテリア関係のアイテムの構築を図る。